

令和８年度鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会 会議記録

日 時	令和８年８月２８日（金）１３：３０ ～ １５：００
場 所	市役所本庁舎 ７階大会議室
出席者	【有識者委員（１６人）】 新屋 浩一 （鹿屋商工会議所 会頭） 別府込 初男（かのや市商工会 副会長）※代理出席 中野 正治 （鹿児島きもつき農業協同組合 代表理事組合長） 皆倉 貢 （鹿屋市漁業協同組合 代表理事組合長） 坂脇 健一 （大隅地域振興局 局長） 印南 百合子（国立大学法人鹿屋体育大学 理事） 片野坂 義仁（国立大学法人鹿児島大学 准教授） 志賀 玲子 （学校法人志學館学園志學館大学 教授） 今村 和也 （鹿屋市 PTA 連絡協議会 会長） 菊次 慶祐 （日本政策金融公庫鹿屋支店 支店長） 持田 秀行 （鹿児島銀行鹿屋支店 支店長） 東 省吾 （鹿屋公共職業安定所 所長） 丸野 里美 （NPO 法人ローズリングかのや 事務局長） 郷原 真奈美（鹿屋市保育士会主任主幹会 会長） 宮下 昭廣 （鹿屋市社会福祉協議会 会長） 隈崎 和代 （おおすみハナマルシェ実行委員会 実行委員長） 【欠席（３人）】 松崎 浩隆 （大隅地区公立高等学校長会 会長） 上假屋 愛 （一般社団法人鹿屋青年会議所 委員） 小林 千鶴 （小林公認会計士事務所 代表）

■主な質疑等

発言者	内容
丸野委員	【第３期鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について】 ○ 外国人の社会増減について、転入のみでなく転出も増えているということで、本市もこの外国人の移住による影響は大きいと感じている。転出が増えている理由についてどのように認識しているか。
事務局	⇒ 外国人の転出が多い理由について、正確なデータは把握していないが、就労外国人の任期等による入れ替わりや、他の近隣市町村への移動などが要因ではないかと推察する。
今村委員	○ 図書館が不便な場所にあるため、リナシティがこどもたちの勉強をする場になっている現状があり、図書館に行きたくても行けない、こどもたちが利用しにくいという声が多く上がっている。今後の公共施設の計画があ

事務局	れば教えてもらいたい。 ⇒ リナシティへの図書館の配置については、リナシティの賑わいづくりを進めるうえで、図書館も候補の一として検討できるかと思う。
志賀委員	○ 1点目、商品の高付加価値化や地理的な不利条件をクリアするための、事業者向けのDX支援の取り組みが進んでいるのか。2点目、創業支援の取組の目標値について、令和5年度の実績より令和7年度の目標値が下に設定されているのはなぜか。3点目、第一次産業の強みを生かし、シャトレゼやUHA味覚糖などの企業を次々と誘致しているが、企業誘致と絡んで大卒求人は増えているのか。以上3点について伺いたい。
事務局	⇒ 農林水産業においては、農家人口の減少や担い手の不足が進んでおり、経営の効率化が必須なことから、これまで畑作農業、ハウス農業、畜産業などにおけるスマート農業の推進にあたり、国・県の補助事業の活用や、市独自の支援により、スマート農業の実装化を支援してきた。このほか、水産業や林業においても、加工場の設備支援、高性能機械導入への支援を進め、持続的な農林水産業の発展に取り組んでいる。 企業誘致に伴う求人については、今年UHA味覚糖の新規立地のおかげで、今後20名程度の新規雇用が見込まれている。誘致企業への聞き取りによると、人手が足りない・地元雇用だけでは賅いきれない状況との話を聞いており、地元採用の採用を優先してもらうための意見交換や、市長が直接関東・関西地区の企業を回る企業誘致に向けたトップセールスなども含め、雇用促進に取り組んでいる。 また、目標設定については、当初立てた計画値をそのまま掲載しているが、常に前年度を上回る高い目標を持って取り組んでいる。
坂脇委員	○ 大隅支場跡地への企業誘致に関連することとして、10年間の人口減少率を見ると、鹿屋市の▲7.27%に対し、薩摩川内市は▲8.75%と、薩摩川内市の方が高い状況である。一方で、薩摩川内市は最近データセンターの誘致など非常に大きな動きがあり、実現すれば関連産業が一気に盛り上がり、減少率が鹿屋市を逆転してしまうのではと懸念している。市長のリーダーシップのもと、誘致活動については県も一緒になって取り組んでいきたい。
菊次委員	○ 空き家バンクのホームページを拝見したが、掲載物件の写真が、風呂場にゴミが散乱したままの写真がそのまま掲載されていて、衝撃的だった。写真1つで移住希望者の受ける印象が大きく変わってしまうのはもったいなく、興味を持つ人の移住意欲を削ぐことにもならないか。
事務局	⇒ 空き家バンクの写真は現状のままを載せているものがいくつかある。補助制度活用の関係上、物件の交渉後に片付けるケースが多く、片付け前のまま掲載されているが、見た目も大事であるため、今後は注意を払いたい。

隈崎委員	○ こども誰でも通園制度について、実際の活用件数や利用者数と、周知方法をどのように取り組んでいるか伺いたい。また、教育活動はカノオヤトークの他にどういった取組をしているのか、グローバル社会・地域特性を活かした教育の取組について、どのような活動をしているか伺いたい。
事務局	⇒ こども誰でも通園制度の実績については、令和7年7月から事業を開始し、登録世帯数が63世帯、児童数が67人、うち実際の利用実績は、40世帯、利用数が43人となっている。まだ周知が十分でないとも感じており、今後もきめ細かい周知・広報に努めたい。 地域で支える家庭教育の推進として、家庭教育学級や、家庭教育アドバイザーの設置などを行い、保護者の皆様が子育てへの知識を深め、交流でき、支え合うための取り組みを推進している。また、グローバル人材の育成として、地球規模の視野を持ちながら、自分たちの地域課題の解決に向けて行動を起こせる子供たちを育成することを目的に、国際文化の理解の推進とともに、コミュニケーション力や英語力の向上に取り組んでいる。その一環として、台湾へこどもたちの派遣を行うなかで、こどもたちにかのやPR大使という役割を担ってもらい、台湾現地で鹿屋市の魅力をPRするなど、地域の特性・強みをよく理解した上で世界に目を向けるといった、グローバル人材の育成を図っている。
片野坂委員	○ 事業全体において、令和7年度の達成状況を踏まえ改善・強化・工夫している内容が記載されているが、事業によって具体的な改善策の有無が様々であり、課題を分析した上での対策や取組があると、より分かりやすいと感じた。この中で、まちの賑わいづくり事業について、中心市街地活性化に向けて新たに取り組む事業への支援に努めるとあるが、具体的にはどのようなものを検討しているか。
事務局	⇒ まちの賑わいづくりについては、中心市街地の活性化として、賑わいづくり協議会を中心に、冬の花火大会などの各種イベントが実施されているが、令和6年から現在まで新しい取り組みがないのが現状である。屋外イベントが多く天候に左右されやすいといった課題も含め、賑わいづくりには何が有効なのか、協議会とともに検討を進めており、令和8年度以降、新たな取組が出来ればと考えている。
印南委員	○ 男女共同参画の推進状況について、指標は◎の評価となっているが、令和7年度の市民意識調査を確認したところ、令和5年度の調査と比較すると選択項目が変更されていた。回答者が答えづらい項目を選んだ可能性があり、単純な比較で、意識が劇的に改善したと判断するのは少し注意が必要ではないかと感じている。今後、経年比較をする際は設問や選択肢を統一すること勧めたい。ここで気になったのは、令和4年度に男女が平等でないと回答していた世代が60代の女性が多かったことに対し、逆に若い世代は平等であるとの回答割合が増えている部分に地域の特性が現れて

事務局	おり、女性が活躍できる場が少ないことで、特に若い女性が外に出てしまっていることが数字でも明らかとなっている。鹿屋市の農業、環境、福祉、文化といった強みを持つ分野が、DX化が進む先として注目されており、女性が活躍できる産業構造を整え、中学生などの早い段階から理系女性の育成に取り組むことを、戦略の中に盛り込んでもらいたい。 また、メタバース婚活事業について、インターネット上の婚活は若者が簡単に諦めてしまったり、交際が長続きしなかったりする傾向があるが、当事業における具体的な成果について伺いたい。 ⇒ 男女共同参画における調査結果については、こちらでも上昇の要因について分析し理解をしている。また、60代以上の女性が不平等を感じているという点については、地域行事や家庭内でのお茶汲みなどを女性がするものだという意識が依然として残っているものと認識しており、市としては、企業向けの男女共同参画の啓発指導や、小・中学校など若い世代からの意識啓発に向けた講演会などに取り組んでいる。地域全体、全世代の意識改革を進めているところであり、若い女性たちが、鹿屋に戻ってきたい、暮らしたいと思えるように環境を改善できるよう、今後取り組んでいきたい。 メタバース婚活については、令和7年度の新規事業として、顔を合わせず仮想空間上のアバターを介して会話をし、内面からアプローチして距離を縮めていくという、市としても全く新しいアプローチの試みであった。男性10名、女性8名の計18名が参加され、結果として7組のカップルが誕生し、直近の報告では1組が正式に婚約されたという成果が出ている。
今村委員	○ リナシティで市民団体や保護者がイベントをする際に必ず駐車場が問題となる。リナシティで他のイベントが重複していると駐車場が満杯でイベントが開催できなかったり、夕方以降は周辺の混雑により保護者が駐車場を見つけられず、開始時間が遅れイベントの進行に支障をきたすことなどがある。夕方以降は公共交通機関もほとんど機能していないことから、駐車場の整備についても検討をお願いしたい。
事務局	⇒ 駐車場不足について、リナシティでのイベント実施時には、正面のイベント広場やまちなかパーク、少し離れた城山公園駐車場への分散駐車を推奨・誘導しているが、それでも不足しているとの声も聞いているため、今後中心市街地の賑わいづくりを進めるうえで、駐車場の問題についても検討していきたい。
丸野委員	○ 地域特性を活かした取組について、鹿屋市には就労・労働の関係で多様な国籍の外国人が数多く暮らしているが、地域での交流機会がまだ非常に少ないと感じており、グローバル時代を生きる子どもたちにとって、外国人と交流することは非常に貴重な機会であると思うので、そういった機会を増やすことを検討してもらいたい。また、メタバース婚活についてはア

事務局	メリカやヨーロッパなど海外でも同様のネット婚活における安全性の問題が議論されており、セキュリティ面において参加者が安心して参加できる環境に努めてもらいたい。 ⇒ メタバース婚活については、委託先事業者において事前の審査を厳格に実施しており、参加者が安心して参加してもらえるよう努めている。
持田委員	○ 鹿屋市人口ビジョンを達成するための手段がこの総合戦略であり、各事業が達成すれば、人口ビジョンも自ずと達成できるものと理解している。しかし、各施策・事業の KPI 達成状況が概ね達成されているにもかかわらず、人口は目標値に対してずっとマイナスが続いている。このギャップを埋めるために、各データを分析することで、弱みが見えてくるのではと思う。鹿屋市は自然豊かで、1 次産業からサービス業、インフラを含めポテンシャルの高いまちだと感じており、他都市での優良事例を分析・模倣し、弱みに対する的確な施策を打っていければ十分戦えると思う。
新屋委員	○ 人口ビジョンの目標について、市の人口は約 9 万人台を推移しているが、仮に人口が 8 万人になった場合でも行政運営が可能であるのか、人口減少を見据え、もっとスピーディーに手を打たなければならないのではないか、目標についてどのように捉えているか。
事務局	⇒ 人口ビジョンの合計特殊出生率を人口置換水準 2.07 程度を目標に掲げているが、本市だけでなく人口減少は国全体が直面する大きな課題でもあり、その中でも子育て、女性が働きやすく暮らしやすい環境づくりなどに取り組むなど努めていきたい。 【地域未来交付金を活用した事業の取組について】 質疑なし